

# 宮城県図書館の復旧に向けて ～図書105万冊落下からの復活～



## 1 地震当日の様子

3月11日、14時46分地震発生当時図書館1階、2階、3階の各フロアには約350名の利用者がいた。地震直後に各カウンター職員が、フロアに出て本棚の倒壊や本の落下による利用者への被害を防ぐため、「本棚から離れるように。」と叫び、利用者を本棚から離れた。企画管理部長が1階防災センターから「利用者の皆様は職員の指示に従うようお願いいたします。」との緊急連絡放送を繰り返した。しかし後日談として、緊急放送が利用者の声や避難する靴音で聞こえにくかったとの指摘があった。また2、3階利用者の中には

揺れが収まると同時に中央階段や停止したエスカレータの階段で1階に降り、正面玄関や西口玄関から走りながら駐車場に向かう利用者もいた。3階エスカレータ脇の大型ガラス1枚が1階エントランスまで落下、散乱し、幸いエントランスに利用者はおらず、被災時に利用者にも職員にも怪我等の人的被害はなかった。

大きな揺れが収まると同時に、職員が利用者をフロア毎の非常口前に集合させ、避難通路等の安全確認後、非常階段を利用し、利用者一人ひとりを正面玄関前避難場所まで避難誘導した。利用者

の中には、高齢の方もいたため利用者全員を安全に避難場所まで誘導するのに時間がかかったが、15時15分頃までに利用者全員を無事安全に誘導することができた。それと並行して、館内に残留者がいないかエレベータ内やトイレ内等の各室を確認した。

後日、当日高齢の利用者の方から、「歩行の困難な自分を図書館職員とそばにいた大学生と一緒に肩を支え、励ましてくれて無事避難することができました。ありがとうございます。」とお礼の手紙をいただいた。利用者の方にも高齢の方や、歩行の不自由な方への避難誘導手助けをしていただいた。避難場所と隣接する図書館駐車場では、自宅に帰ろうとして県道に出ようとする利用者の車が、停電のため作動しない信号機の前で大渋滞となっており、職員がその誘導にあたった。

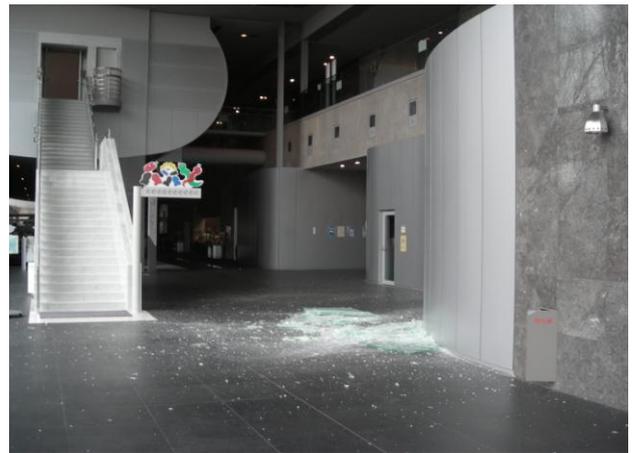
避難場所では余震が続き、雪も降ってきた。余震の度に利用者から悲鳴があがった。また携帯電話で家族と連絡をとりたいが繋がらずにいらだつ利用者も多かった。そんな状況の中、職員が手分けして、利用者全員の怪我の有無や所持品の確認等を行った。

本部では館長以下副館長、部長、次長等で対策会議を開き、15時30分過ぎに利用者の入館禁止と明日以降当分の間の休館を決定し、その旨を職員、利用者に伝えた。地震直後に自分の荷物を持たずに避難した利用者が多かったので、各階担当フロア職員が手分けして各フロア机に置いてある利用者の荷物を避難場所まで運び、ひとつひとつ確認しながら利用者に渡した。地震災害状況は職員や利用者のTV付き或いはラジオ付き携帯電話からの情報のみだったが、職員がわかる範囲内で情報を利用者に伝えた。解散後ほとんどの利用者は自家用車で帰宅したが、利用者の中には、家族等の迎えをこの場で待ちたいという方が10名程度おり、その方々には図書館事務室内で待機していただいた。利用者の最後の方が帰宅したのは18時頃だった。

地震直後に停電になったが、館内は非常用自家発電で照明の中作業を続けることができた。ただ

し、燃料である重油の残量から算出して、5時間程度の使用しか見込めないと判断し、極力節電しながらの作業となった。16時過ぎから、総務班を中心に人数を割り振り、2人1組でチームをつくって各階各箇所の被害状況の確認をはじめた。

ガラスの破損や散乱等で危険箇所が多いため、安全に配慮しながらの確認作業になった。1階は3階エスカレータ脇から落下したガラスが散乱し



ており、2階子ども図書室、児童資料室からの確認作業となった。児童資料室の閉架書庫本棚からは、ほとんど全ての本が落下しており、資料室の中を歩ける状況ではなかった。2階展示室では大きなガラス1枚の破損があった。養賢堂内では正面の大理石石板の破損や落下があった。研修室内では大型ガラステーブルの破損と大理石石板の破損や落下があった。3階開架フロアでは幸いにも本棚の倒壊はなかったものの、開架書庫のほとんど全ての本が本棚から落下していた。落下した本を組み込みし、詳細整理を終えるのに、どの程度の日数がかかるのか考えながらの確認作業となった。重い本棚が地震の揺れで動いた形跡もあった。天井から落ちたのか、ボードを支えていた板も数枚散乱していた。利用者の頭に落ちなかったのが幸いである。内壁にも剥離が多数あった。新聞、雑誌コーナーでは大理石石板の落下があり、破片が散乱していた。内壁等の剥離状況は、あまりに被害箇所が多く、詳細な調査は明日にまわすことにした。次に3階開架書庫から3階閉架書庫に向かった。閉架書庫は通路が狭いため、本棚から落

下した本が通路を覆い、歩くこともままならない状況であった。通路に散乱している本を通路脇に重ねて、50cm幅程度の歩くスペースを確保しながらの状況確認であり、直線200mある本館の作業は時間がかかった。4階の閉架書庫の被害も甚大で、本の落下のみならずマイクロフィルム保管庫数台が倒れ、倒れた保管庫が隣室の扉を塞いで、隣室に行くために2人がかりで保管庫を動かそうとしたが動かず、隣室への出入りは大きく迂回することになった。電動書架の損壊も激しく、いつもは整然としている書架が大きく傾いていた。大きな網入りガラス3枚の破損があり、割れたガラスの破片が、落下した本の上に散乱していた。館内の災害状況確認をひととおり終了すると18時を回っており、天気も悪いせいか周囲は暮れていた。雪の中懐中電灯を使用しながら外構を確認した。

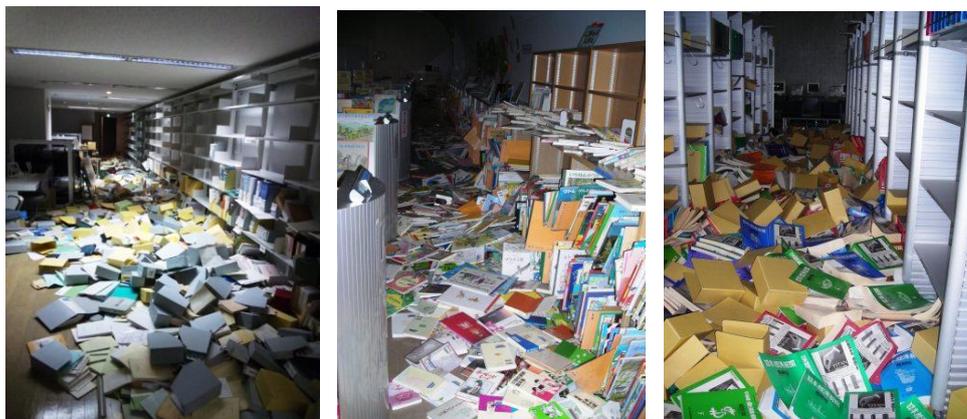
正面玄関付近は段差ができており、車イス使用通路も使用できない状況になっていた。西側出入口付近の通路や駐車場との境にも5～10cmの段差ができていた。遊歩道では、地盤沈下により土砂がくずれ、排水弁等の破損や木々の倒壊があった。遊歩道の利用者も多いため、立ち入り禁止とした。周囲も暗く、余震も続いているため地震当日の被害確認作業は危険防止も考慮し、ここまですた。

地震被害状況の本課への報告は、端末機器、電話が使用不能になったため、本館職員の携帯電話のメールでの第一報となった。

## 2 地震発生2日目

3月12日(土)地震発生2日目。出勤している職員は8時30分に1階エントランスに集合し、まず全職員の安否の確認、家族や家屋の被災状況の確認をした。職員の中には家屋の半壊や、両親の居る実家が津波により全て流されたり、1階部分が浸水し、両親が避難場所に避難していたり、電話が通じず両親や兄弟と連絡のとれない職員が多数いた。ミーティングでは、地震直後に確認した本館の被災状況やライフラインの状況(水道、電気、ガス等)を説明した。(停電期間は2日。断水期間は9日間続き、復旧したのは3月20日。またガスが復旧したのは3月30日だった。)

全職員で本館の被災状況を共通理解したうえで班毎、複数名1組になり、各担当に分かれ詳細な被災状況を調査した。新たに防煙垂壁(ガラス)3枚のひび割れや1階エントランス上部のガラス板のひび割れ等を確認した。また防火シャッター3枚の不具合や多数のスプリンクラーカバーの落下、照明器具の破損、照明器具ワイヤーの切断、各室内壁の剥離などがみつかった。遊歩道では盛



土の亀裂と倒木、枝の折れ落下が多くあった。午後からは危険な場所をカラーコーンなどで区分けして安全な場所と立ち入り禁止場所を区別した。安全場所を確保したうえで、フロアやワーク内の机や書棚等の片付けをはじめた。片付け終了後に1階視聴覚コーナー、2階こども図書室、児童資料室、3階開架書架で本の組み込み作業を順次開始した。大地震の2日目であり、開架書庫への本の組み込み作業中も余震が続き、その都度作業を中断し、本棚から離れ、揺れが収まるとまた作業に戻った。作業中は職員全員ヘルメットを着用し、懐中電灯を常備しながら、複数でチームを組み作業をした。各階落下本の中には破損した本もあった。

17時に職員全員がエントランスに集合した。各担当から現時点での館内の被災状況の説明や各フロアの後片付け、書架整理の進捗状況報告があり、その後に明日以降の作業についての打合せ、確認調整を行った。

本課には第2報として、被災状況を直接報告しに出向いた。報告資料は停電のため、パソコンやコピー機が使用できないので手書きで作成し、平面図に被災箇所を色塗りしての資料となった。写真もプリントアウトができないため、カメラを持参して被災写真の提示をした。

また、管理職1名と職員1名の2人1組で宿直勤務を開始し、館内には24時間職員が常勤する勤務体制をとった。宿直勤務体制は3月21日まで続いた。

### 3 地震3日目以降 復旧へ向けて

3月13日地震発生3日目。前日同様に8時30分に全職員によるミーティングを行い、各班各フロア毎に開架書架の組み込み作業を行った。まだ電気や水道、ガスの復旧はメドがたたず、食料も十分に調達できない状況での作業であった。地震被害、津波被害の状況もラジオからの情報のみだった。また公共交通機関の便も非常に悪く、ガソリン供給もままならず、通勤も極めて厳しい環

境におかれた。交通遮断等により図書館に出勤できない職員もあり、やむを得ず居住地近くの公所で勤務をした職員もいた。被害状況についても、余震が多いため毎日館内巡回、遊歩道点検の必要があった。電気については、午後8時過ぎに復旧した。

翌14日に班長以上で会議を行い、被害状況や今後の図書整理にかかる作業日数を考慮して当面3月31日までの休館を決定した。ただし、図書資料の返却ポストへの返却については常時可能とした。本を返却しに来館した多くの利用者から「大変でしたね。館内の被害はどうですか?」「1日も早く開館するように待っています。体をこわさないで頑張ってください。」との暖かいご声援をいただいた。

電気が復旧したことで施設設備の点検も本格化した。図書館ネットワークシステム等の確認作業も進んだ。照明を使えることにより、落下本の組込作業も順調に進んだ。15日までの作業で1階視聴覚、2階子ども図書室、児童資料室、3階の開架書庫について、詳細配列に入る前段階までの本棚への戻し入れは完了した。ただし、3階、4階開架書庫にはまだ手がつけられない状況である。ライフラインでは、ガス、水道の復旧はめどがたっておらず、水道の復旧した地域に住んでいる職員がポリタンク等に水を入れ持ち込んだ。館内暖房も使用できないため、暖房なしでの作業が続いた。

17日に4階開架書庫の電動書架を点検したが、作動した電動書架からほとんどの本が落下した。また作動中に人や物が触れると書架の移動が停止する安全装置も半分程度作動しなかった。点検調整の依頼をするとともに、安全装置が作動する書架から本の組み込み作業、配列作業を開始した。その後も配列作業は月曜日を除いて毎日実施し、地震発生14日目の3月24日には落下本に組込作業が終了した。翌25日からは開架書庫において詳細な並べ替え作業に入った。破損ガラスやひび割れガラスの撤去並びに応急処置、天井落下物の除去、内壁の剥離による危険箇所の応急処置、

破損した大理石石板の除去など施設の復旧も進んだ。エレベータやエスカレーター等の点検調整も26日までに終了した。この進捗状況を踏まえ、開館予定日を4月下旬に決定した。

平成23年度がスタートした、4月1日からは全ての貸出図書資料の返却受付を開始し、職員による電話音訳サービスも開始した。新しいメンバーで4月下旬の開館を目指して順調に作業が進んでいたが、4月7日夜中に震度6弱の余震がおきた。夜中に出勤した職員で各階、各フロアの被災状況を確認したが、組込作業の終了した本の約半分が落下していた。状況を確認していた職員からは、大きなため息と悔しがる声が聞こえた。開館に向けて職員一同、懸命に配架作業をしていただけない、その落胆は大きいものだった。

翌日、8時30分にミーティングを行い、被害状況の確認把握を行った。気持ちを切り替え、午前中に配架作業等の計画を練り直しと後片づけをし、午後から全職員で配架作業をはじめた。

4月12日までに1階視聴覚配架完了、2階子ども図書室書架配架完了、児童資料室書庫3割完了、3階一般開架完了、一般閉架2割完了、4階閉架7割完了までに至った。この進捗状況を踏まえ、開館予定を5月中旬に決定した。それ以外の利用者サービスも順次拡充し、4月16日にはレファレンスサービスの受付（メールとFAX）を再開した。4月20日には本館の被災写真を本館ホームページに掲載し、利用者に図書館の被災状況を伝えた。また20日から3日間に渡り4階電動書架の点検調整を行った。安全装置についても応急修理を行った。4月下旬には4月7日の余震による落下を教訓にして組込み作業の終了した各階、各開架・閉架書庫全ての本棚にテープを巻き、本の落下防止に努めた。



#### 4 図書館の再開へ向けて

5月に入り、開架、閉架書庫の詳細配列作業や被災箇所の応急措置状況の進捗状況を踏まえ、5月13日の開館を決定した。

開館2日前の11日には、震災を踏まえ作成した「避難訓練計画」に基づき防災訓練を実施した。また防災訓練前に防災委員会を開催し、現行の「宮城県図書館消防計画」を見直し、「本部」場所の変更や避難を終えた利用者に対するの対応、転入・新任職員に対する防災教育など規定の変更を行った。また毎月11日を「毎月11日（いちいち）防災点検日」とし、職員全員で防災器具の点検をや避難経路の安全確認をするなど、防災対策と職員の防災意識の向上を図ることとした。

開館前日には全職員で、館内や敷地内の危険箇所立入禁止措置の案内や誘導表示の追加設置等を実施した。

5月13日10時に63日ぶりに開館した。開館十数分前には東側正面玄関、西側玄関に利用者が並びはじめ、開館を待っている利用者の多いことに感謝するとともに、身の引き締まる思いがした。なお、震災被害対応や余震を考慮し、当分の間、開館時間を火曜日から土曜日までは、10時から18時まで、日曜日・祝日は10時から17時までと変更した。開館日の5月13日から15日までの3日間の1日平均来館者は、1,653名で1日貸出数は4,381冊であった。また13日の開館にあわせて、特別展示「東日本大震災を関東以西の新聞はどう伝えているか」と題し、当館では購入していない関東以西の地方新聞社28社から、寄贈を受けた3月11日当日の号外から4月末日までの新聞を、3階新聞雑誌室において1か月間開催した。号外は全部ボード等に掲示し、その他はテーブルの上に置き、利用者の手に取って見られるようにした。

5月28日からは、2階展示コーナーにおいて「みやぎ夢大使からのメッセージ」パネル展示を実施した。

その後本館では7月5日から開館時間を火曜日  
から土曜日は9時～18時まで拡充し、日曜日・  
祝日については、開館時間を震災前の9時～17  
時までに戻した。10月1日からは火曜日から土  
曜日も震災前の9時～19時までに戻した。

防災訓練については、職員半数勤務日に実施し  
たり図書館利用者にも参加していただくなどの引  
き続き、震災を教訓とした利用者への安全対策を  
実践している。

なお本格復旧工事は、これからである。

## 5 市町村図書館支援について

市町村図書館支援としては、4月26日から県  
内公共図書館等の巡回相談を行い、各図書館の被  
災状況や現状を直接確認しながら復旧に向けての  
要望等を聞き取りした。南三陸町図書館では津波  
で建物、図書資料の全てが流失した。塩竈市民図  
書館が入居している建物の1階が浸水し、岩沼市  
民図書館では東分館が床上浸水した。気仙沼図書  
館では、移動図書館車が水没した。沿岸部の図書  
館のみならず、各図書館とも地盤沈下による建物  
の損壊や柱・壁の傾斜やゆがみ、書棚の損壊や破  
損があった。各図書館とも休館し、施設設備の応  
急措置をしながら、落下本等の整理を行い、早い  
図書館で3月下旬に他の図書館でも約8割が4月、  
5月中には開館時間の短縮やサービスの一部停止

はあったが、開館することができた。

県内の図書館への巡回相談は、7月14日まで  
実施した。巡回相談を受けて、6月30日に南三  
陸町立戸倉小学校と入谷小学校に対して図書の協  
力貸出を実施した。7月22日には「宮城県公立  
図書館等連絡会議」を開催し、参加各館から被災  
状況と復旧状況等について説明を受け、県内市町  
村図書館と情報の共有を図った。8月21日には  
南三陸町図書館の復旧支援のため、本館職員をは  
じめ、公立図書館等職員、大学図書館関係職員や  
学生の参加を得て、支援活動（フィルムコーティ  
ング作業や仮説図書館の準備）を実施した。9月  
6日には南三陸町立名足小学校へ図書の協力貸出  
を実施した。

9月16日には本館会場に公共図書館等職員研  
修会を開催し、被災した図書資料の修復にも通じ  
る「破損本の修復に関する実技講習会」を開催し  
た。

9月23日から25日の3日間、南三陸町図書  
館の10月5日の開館に向けて、本館職員をはじ  
め、公立図書館等職員、大学図書館関係職員、学  
生等3日間延べ92名の参加を得て、環境整備や  
図書の装備を実施した。

※ 宮城県図書館だより

「ことばのうみ」NO.37 平成23年8月発行  
P2, P3に「地震発生」から「宮城県図書館再  
開までの道のり」を記載しております。

また、「宮城県図書館における東日本大震災  
の被災・復旧の記録」に詳細を記載しており  
ます。

